（郵便送料共三錢）（毎月曜日休刊）（定價金三錢）

時事新報

第千二百九十七號
明治十九年六月九日 水曜日
舊丙戌五月八日（庚子）
日出午前四時四十五分 入午後七時十三分
月出午後十一時四十一分 入午前十一時
潮午後十時三十三分 午前十時零三分
（曆一千八百八十六年）

時事新報

日本人の海外移住

日本人は外國に遊ぶことを好まず否外國に遊ぶことを好まずと云はんより外國に遊ぶことを知らずと云ふ方寧ろ事實を寫すに適當の語ならん古來絶海の孤島に閉居して世界を知らず幾近二百五十年の無事太平全國の人心を封建專制に積弊の下に萎縮して鄉關の外に馳するの餘裕なく一山一水の小天地に躊躇して籠鳥の生涯を以て自から樂しむの外に工風なかりしなり然るに明治維新の一擧國民始めて心身の自由を逞しうするを得て天地の廣袤を知ると復た昔日の一山一水にのみならず日本全島到る處として皆我居あらざるはなきのみならず日本島外世界何ぞの地と問はず處として往くべからざるはなく處として住すべからざるはなし籠鳥籠を出で池魚海を見るの愉快も明治の日本國民が闊天地を得さるの喜びに敢て增すことあかるべし左きば日本國民も此機會を空しうせず近年漸く遠遊の志を起し他國に移住の企を爲すものも少なからず近くは米國サンフランシスコ地方の如き今より三年前まで居留れ日本人は僅かに百餘名ありしものが三年後の今日に於ては既に六百名に達したりといへり亦以て人心の一斑を窺ふに足るべし其他布哇島の移住民の如き東洋各港の出稼人男女の如き近來日本人が外國に移住する人數は一年既に千を以て數ふるに足るの勢を成したりといへども此際我輩の尙や甚だ不滿意なるは日本國民が二十年の久しき未だ封建の餘習を脫する能はずして整居主義を固守し偶ま開明有爲の志を抱いて四方に往來せんとする者あるも其人數を聞けば一年僅かに千を以て數ふるに過ぎずといふは日本國民の爲めに謀て唯落膽するの外なし有樣ありと云はざるを得ず獨逸の如き又英國の如き其人口の多寡を聞けば孰れも四千萬内外に在て日本の人口に伯仲するものなるに此兩國より米國濠洲等に移住をる者い年々各廿餘萬人なりと云ふ日本人は現狀を以てみれと英獨兩國人に比ぶるときは冒險企業移住外遊の念の乏しきこと兩國の百分一にも及ばずと云はざるを得ず世界と横行をるものは世界の富を掌握し一鄉に整居する者は一鄉の富を守る能はざる今の日進の時勢に當り他人の百分一にも及ばざる小智勇を養ひ頼て以て永く他人と比肩對峙の榮を全うし得べしと信ずるが如きは愚の甚だしきものと云ふべきなり

我輩は常に日本人の外遊の志なきを歎して措うざる折柄伊太利の墨屋國遊に出でゝるにや近來米國にては就中太平洋岸の地方にては日本人の外遊する者の漸く增加したるを見て俄かに恐怖の念を生ぜ今に及んで早く日本人の米國に侵入をるを防止せずんば米國の富い悉く日本人の爲めに奪ひ去らるゝに至るべきとてサンフランシスコの新聞紙等には往々これに論及するものあり畏して曰く米國人の注意と促がすたるは兩三年以來三千人は日本農夫が布哇島の甘蔗畑に出稼ぎをたるの一事に在るが如し蓋を米國人が日本人を恐るゝは先づ日本人は性質を審らに玄果して其恐るゝに足るべきものあるを見てこれを恐るゝにはあらず唯從來太平洋岸の地方に移住し居る十萬の支那人が廉價の勞力を以て自色の米國人と勞働市場に競爭し着々勝利を占めて蹉屈至らざる所なしと見て米國人い遺憾に堪えず如何にもして支那人等を米國の勞働市場より放逐せんと百方其工風を求めて工風を得ず果ては腕力に訴へて理不盡の所業さへなる折柄偶ま東洋の一國民たる日本人が群と成して布哇島の甘蔗畑に侵入をたりと聞かば支那人と日本人との間には何等の相違あるものにや其邊の詮索は後に廻へし又も一派の東洋人種が太平洋の半まで攻寄せ來りたるを早く門戸を鎖ぢて如く初めに防禦の用意を怠りて大に後來に悔を遺すの愚を再びするおかれとて狼狽奔走するものに外あらざるが如き奚に慫りて贈と吐哺夜乾しれ浴衣を見て幽靈と爲す等天下に其例少なからざれば今米國人等が支那人に慫りて日本人に累を怖るゝも亦強ち無理と云べからずといへども去りとは米國人にも不似合なる粗忽の振舞にして米國と日本と海を隔つれ隣國同士往來の便も澤山なるに一たび日本の事情を詮索をれば因りて取らず專ら自己の臆測を實事視し風聲鶴唳に狼狽をるとは扨〳〵笑止なる人々かと云はざるを得ず今度日本人の布哇島に移住したると内外國人の既に熟知する如く全く日本布哇兩國政府の周旋盡力に依りて漸く行はれたる事にして決して農民自身等が興奮自働して此移住を企てたるものにはあらず近年祝日一般の大不景氣坐して衣食の道を得ざるよりして其日好まざる事柄ながらも唯政府の保護を杖柱と恃を涙をかふに居村を去りて布哇とやらへ往たる迄の事にして聊も賴母しき所あるにいわらず若し此等三千の農民をして政府の論告保護を待さず自ら志を立て奮闘を出で廣く利益を世界に求めんとしたる程の者ならんにい日本國民も少しは恃むに足るべく我輩世の識者と共に平常日本國の維持を心配をるみと左まで大みるを要せざるならんかなれども哀しいかな日本國民は未ざ實際米國人等れ膽を塞し同胞憂國者等の任を輕くする程の智勇なるものにあらず今後若し日本米國兩政府の保護奬勵の厚きものあらばイザ知らず唯永く日本國民の銘々自働する任せ僅く眼りは米國太平洋岸の地方は五千の日本人と見んとするは今より倘ほ十年の日と要するあらんと考へらるゝあり米國の相憂者等も少しく其驕を大に去て聊か枕を高うして可あり

官報

○告示

○第十二號

左ノ諸縣ヲ虎列刺病流行地ト認定ス

岡山縣（美作國ヲ除ク） 廣島縣 和歌山縣 愛媛縣

本年（五月）第九號ヲ以テ告示シタル虎列刺病流行地方中京都府下丹後國兵庫縣下但馬國ハ之ヲ除ク

明治十九年六月八日 内務大臣伯爵山縣有朋

○第十三號

本年第十二號告示ニ依リ檢査ヲ受クベキ船舶コレヲ横濱東京ニ航行スルモノハ神奈川縣下相州長浦ニ寄停シ檢疫官ノ檢査ヲ受クベシ

明治十九年六月八日 内務大臣伯爵山縣有朋

●虎列刺

流行地	月日	新患	新舊死亡
大阪府	六月六日	八十二人	七十三人
但し四區西成郡新患四十人新舊死亡四十二人			
京都府	同	三十八	二十八
但し上下兩京區に新患二十三人新舊死亡十六人			
兵庫縣	同	三十八人	四十四人
但し神戸區に新患二十一人新舊死亡二十六人			

○流行地外虎列刺 愛知外五縣よりの報告に係る虎列刺患者左の如し

縣	月日	新患	新舊死亡
愛知	本月二日三日	二人	一人
石川	本月三日	一	。
富山	去月三十一日	一	。
德島	本月六日	五	三
愛媛	本月五日	二四	二〇
福岡	去月二十九日	一	一

○鐵道工事着手 日本鐵道會社鐵道第三區仙臺線工事は去る一日より着手せり（鐵道局報告）

○上海居留我が國人の數 本年三月の調査に係る清國上海居留我が國人の數は左の如し（外務省報告）

公用	官費	私費	商用	職工	雇奴婢	游員	遊歷	諸用	合計
男	女	男	女	男	女	男	女	男	三五四
女	男	女	男	女	男	女	男	女	四二
一五	五	四	〇	三七	六	一七	一六	三三	三七六
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
一五	五	四	〇	三七	六	一七	一六	三三	三七六

（以上本年六月八日官報）

○里昂蠶繭研究所の事業 近年伊太利、獨逸、瑞西等の諸國は於て製絹の業非常に進歩し當里昂府と大に競爭と始め將に之れと壓倒せんとするの勢ありを因りて之れを防禦せんが爲めに當府商法會議所い專ら其の方法を計畫せり而まて外國製造場の競爭を防ぐにい保護稅等の手段はてい到底勝を制すること能はざるを知り製絹に從事する者の智識を廣発其の製造を川ゆる元質と研究するの道を開くに若かずとの決議にて一昨年發起人ナタリ、ロンド氏の意見と容れ生絲檢査所附屬とまて新に蠶繭研究所設置のことを計れり蓋し其目的たるや各國の蠶種、繭、蠶絲等を蒐集し蠶種の改良、繭の重量、生絲の細大强力伸力並ぶ色染に適當の種類其の他蠶絲、蠶繭に關をる一切の分析改良を計り以て製絹の進歩と勸奬をるに因り但し當府の上等製絹は皆手織なるを以て他國の絹布より低價と販賣をることを實行し難きと付き其の元質と改良し其の品の優等あるを以て勝を取るの考案に出でしと云ふ右決議は商法會議所より佛國商務卿ゑ提出し同卿れ認許を得て開設することを定め先づ創立費として同會議所より佛貨五千法を出せり依りて第一着歩とまて商務、海軍、植民、外務の四省に請願し海外出張官員をして蠶繭に關をる各國の實況報告并ゑ見本蒐集の事を托せり既に一昨年の末より各種れ蠶種繭絲并ゑ説明書等來着ま爲度其の原料を備ふるとと得たり同會議所より當府ゑ存る我が同伸社支店へも依頼し本邦の蠶繭等も取寄せさる趣に通常の繭絲い勿論蠶に至る迄夫々區別をな備付あると見たり其の場所と生絲檢査所内れ一室ゑまて格別廣大なるものとは思はれざれども研究所の目的を達そるには適し十分なるべし目下之と管理する役員は委員長一名生絲商人三名製絹家二名、染物師一名、農會員二名、生絲商組合社長、幷に檢査所長と以て之と組織し實際學問上に研究とヤユズアー氏に委托せり其研究の事項とい前みも略述せる如く（第一）蠶繭と分析し並に蠶絲の性質を探究すると（第二）繭種改良れ方法等にまて何人と論せず其種に應じ試驗をるして説明を與ふるとなり而して繭の重量生絲の細大、伸力、强力色分染付に適當の處等を研究する爲種々の機械を備付け研究所ゑ組織れ本日開ゑ漸く蠶絲改良上効許れ成果を與へたるや否を得て知る可からずと雖ども ヤユズアー氏い目下顯方法と研究（Theophila nbyix）に之をより唱もると得い百分の九乃伸力は百分ふ可らず之の二十ゑ過の蠶種と交蠶を得べき本邦に於ての趣なきとの改良と施是迄野蠶絲生絲より劣ざるがため リヨン領事館報

○西京通信 當府みては衙に於て演るものと總くの區會議員二なる琵琶湖疏水の事情を説明し處近來は自宅に自都合の事情より也更に場ゑ打務せ校れ設立あと有し且商ゑなさんと本邊馬内貴兵衛市田理ゑ○是迄以て不都合の號砲と發り兩京區長○三重通信 本日電報を時四日市より井縣令は氏たり又本日を招きさる神商豪家な米國人ストキ株式會社支部の役員の抜其功績の發動似虎列なし○時候あり去が本も未だ全くの不全腸窒調査ゑ據れ村南部ゑ遂たり依て之

Even the